

(様式㉚-1 小学校・中学校)

令和7年度 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像										堺市立 八田荘西小学校		
「確かな学び」「豊かな心」「健やかな体」を育みながら自他ともに尊重し、自ら考え、行動できる子ども										校長 今村 智也		
R7年度 重点目標												
豊かな心を持ち、学ぶことに喜びを持つ子どもを育てる ー人間性豊かな子どもの育成をめざしてー 学びの主人公 ～自らつなげるねばる自己決定する子どもの育成～												
確かな学びの現状						豊かな心・健やかな体の現状						
本校の児童は、学びに対して受け身であるという課題がある。そのことが学習意欲や学力の定着につながらない要因のひとつであると考え。そこで、堺市の取り組みの一つである「学びのコンパス」との連携を図りながら、児童自らが、学習や心身の成長をデザインしていくことで、意欲的・主体的に取り組んでいけるようにしていきたい。具体的には、各教科における学習において、各単元の学びのゴールに向かって、自分なりの方法で学習を進めていくことを最終目標として設定し、今年度はまず、いくつかの選択肢を設定し(教師が設定したり、児童が設定したりする)、自らの学びにふさわしいものを選択していくことから取り組んでいきたい。						肥満傾向が少ないことや運動場でよく遊ぶ子どもが一定数いることは、学校としてのよさとしてあげられる。しかしながら、昨年度は、体力テストにおいて、全国平均を超える種目が少ない状況にあった。中・高学年の子どもは持久力や跳躍力で、低学年の子どもは握力や走力の課題が継続してみられている。そこで、縄跳びやかけ足の取り組み、休憩時間の外遊びの奨励などに加え、「なかまつくり」による異年齢集団による外遊びなど、体を動かす場を様々な機会をとらえて推進していきたい。また、総合学力プロフィールからは、「朝食をとっていない」「入眠時間のばらつき」「SNSやゲームとの付き合い方」に未熟さがみられる。そこで、生活科・保健体育・家庭科・総合的な学習の時間等での学びから、健康に対する意識向上及び、態度面の育成を図りたい。						
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)				
								自己評価		学校関係者評価		
確かな学び	教科 学力向上	子ども達の「主体性」を育む授業作りを行い、これからの時代に生きて働く力を育てる。	●校内全体研修を年6回、公開授業を年約14回程度、学年会を週1回、Jump Up研修を2か月に1回実施し、「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」を創造する。 ●「自分の思いや考えたことを相手を意識して適切に表現したり受け止めたりする力」、「粘り強く課題に向かう力」、「自ら判断し自己決定して行動できる力」が発揮されている場面や成果物を掲示板、HP、集会、学級指導等で紹介し広める。	・西っ子アンケート「授業で自分の考えを表現することができたか？(ノートに書く・発表するペアやグループで話すなど)」「積極的に、内容を受け止めながら、友だちの意見(考え)を聞くことができたか？」の項目 肯定回答90％以上(前年度94％) ・学習ノート ポートフォリオ ワークシートの記述内容	西っ子アンケート 子どもの成果物	学期末 随時 学期末 年度末	○ ○	西っ子アンケート「授業で自分の考えを表現することができたか？(ノートに書く・発表する・ペアやグループで話すなど)」の項目の肯定回答88％、「積極的に、内容を受け止めながら、友だちの意見(考え)を聞くことができたか？」の項目の肯定回答92％であった。自分の考えを表現することに関して、国語の学習などで表現する機会を設けていく。 「人と協力(きょうりょく)することが できましたか」、「少しむずかしいと思うことでも あきらめずに ねばり強くがんばれたことがありますか」、「自分で考えて決めたことを さいごまでやりぬいたことは ありましたか」の西っ子アンケートの結果、全ての項目で90％を達成している。				
			●「学びのコンパス」の実施に伴い、自己選択を中心に様々な教科で授業実践を積み重ねていく。 ●児童用PCを活用し、場に応じて、個別の最適化の学びにつなげる。	・西っ子アンケート「授業では、自分に合った方法で問題を解決しようとしていますか。」の項目 肯定回答85％以上 ・全国学調の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の項目での肯定回答85％以上(前年度83％)	西っ子アンケート 全国学調	学期末 随時 学期末	○ △	西っ子アンケート「授業では、自分に合った方法で問題を解決しようとしていますか。」の項目では、肯定回答87％であった。学校教育目標の「学びの主人公」の実現に向けて、教師は自己決定できる環境を用意し、児童は自分にあった方法を選択して学習に取り組んでいること分かる。肯定回答ではない児童には、選択肢を減らし、より簡単に選べるような手立てを講じていきたい。 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の項目での肯定回答は75％であった。わからないことがあっても、自分で学び方を考えることが苦手な児童がいると考える。そこで、「自己選択」を大切にしていきたいと考える。児童が分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で考えることが難しかったとしても、いくつかの選択肢の中から選んで取り組んでいけるように、教師も支援していきたい。				
	学びの基礎力向上	自ら学習を選択し、学習習慣を確立させる児童を育てる。 「自主学習」「自己選択課題」をとおして、生活・学習習慣を整え、粘り強く自ら学ぼうとする力を育てる。	●児童用PCを活用し、場に応じて、個別の最適化の学びにつなげる。	・西っ子アンケート「生活目標を守ることができたか」の項目で肯定回答が91％であり、おおむね目標の数値を達成できている。しかし、「西っ子のやくそくを守っている」の項目においては肯定回答が86％と目標値を下回っている。全校朝会や校内の放送を通してさらなるルールを理解や守る意識を高めていきたい。	西っ子アンケート 児童ふり返り 教員ふり返り 子ども観察	学期末 月末	○ △	西っ子アンケート「生活目標を守ることができたか」の項目で肯定回答が91％であり、おおむね目標の数値を達成できている。しかし、「西っ子のやくそくを守っている」の項目においては肯定回答が86％と目標値を下回っている。全校朝会や校内の放送を通してさらなるルールを理解や守る意識を高めていきたい。 生活目標のふり返り「あいさつ」の項目において、肯定回答が81％であった。目標値を下回っているため、下校指導や全校朝礼を通して「あいさつ」に対しての意識づけを強化していきたい。				
豊かな心・健やかな体	集団づくり	自主的に考え、判断し行動できる子どもを育てる	・みんながルールの意義を理解し遵守する意識を高め、自主的に進んで取り組めるようにする。 ●生活目標を朝礼で周知し、さらに教室掲示する。毎月のふり返りの実施。 ・学校内外を問わず、自分たちの生活に関わりのある人物のことを考え、気持ちのよいあいさつが進んでできる子どもの育成。 ●下校指導、全校朝礼を通して、あいさつができるよう声かけを実施。毎月のふり返りを通して意識付けの強化。 ・「なかま」(縦割り遊び)の時間を通して、異学年の子どもと交流し、多様性を受け入れたり、自分たちのよさを発揮する喜びを味わえるようにする。 ●隔週に「なかま」の時間を実施。子どもたちが、異学年の交流に相応しい遊びを企画し、運営できるようにサポートする。	西っ子アンケート「西っ子のやくそくを守っている」の項目 肯定回答90％以上(R6年度2学期89％) 西っ子アンケート「生活目標を守ることができたか」の項目 肯定回答90％以上(R6度2学期88％) 生活目標の振り返り(児童・教職員) 生活目標のふり返り、あいさつの項目 肯定回答 年間平均 90％以上(R6年度最終89％)	西っ子アンケート 児童ふり返り 教員ふり返り 子ども観察	学期末 月末	○ △	西っ子アンケート「生活目標を守ることができたか」の項目で肯定回答が91％であり、おおむね目標の数値を達成できている。しかし、「西っ子のやくそくを守っている」の項目においては肯定回答が86％と目標値を下回っている。全校朝会や校内の放送を通してさらなるルールを理解や守る意識を高めていきたい。 生活目標のふり返り「あいさつ」の項目において、肯定回答が81％であった。目標値を下回っているため、下校指導や全校朝礼を通して「あいさつ」に対しての意識づけを強化していきたい。				
			・「なかま」(縦割り遊び)の時間を通して、異学年の子どもと交流し、多様性を受け入れたり、自分たちのよさを発揮する喜びを味わえるようにする。 ●隔週に「なかま」の時間を実施。子どもたちが、異学年の交流に相応しい遊びを企画し、運営できるようにサポートする。	西っ子アンケート「なかまの時間は楽しい」の項目 肯定回答90％以上(R6度2学期89％)	西っ子アンケート 子ども観察	学期末	○	「なかまの時間は楽しい」の項目についての肯定回答は93％であった。昨年度は毎週行っていた「なかま」の時間を、今年度から2週間に1回行うことになった。6年生が担当の教員としかり連携することで、「なかま」の活動内容の充実につながっていると考えられる。残り半年で、異学年の子ども同士つながりをさらに深められるように支援する。				
豊かな心・健やかな体	体力づくり	自己の成長や心地よさを感じながら、自ら進んで体力向上に取り組む子どもを育てる。	・体育委員会が中心となって、縄跳びチャレンジを実施したり、縄跳び・かけ足カードを活用したりすることで、運動の楽しさに気付かせ、自ら楽しんで運動をする子どもを育てる。 ・保健委員会が中心となって、生活リズムを見直す取り組みを通して、自ら早寝・早起きをしようとする子どもを育てる。 ・八田荘小学校の栄養教諭と連携し、各学期1回、全校朝礼で朝ごはんや食事の大切さを啓発する。また、全学年1回、食育に関する授業も実施する中で、自らの食生活を見つめなおそうとする子どもを育てる。	・西っ子アンケート「運動することは、好きですか」の項目 肯定回答90％以上(前年度93％) ・西っ子アンケート「早くねて、早くおきる、規則正しい生活習慣を守れましたか」の項目 肯定回答80％(前年度85％) ・西っ子アンケート「朝ごはんをしっかりと食べていますか」の項目 肯定回答90％(前年度87％)	西っ子アンケート 子ども観察 西っ子アンケート 子ども観察	随時 学期末 随時 学期末	○ ○	西っ子アンケートの「運動することは、好きですか」の項目で、肯定回答が93％と目標値を上回っている。引き続き、体育の授業や行事を通して、運動することの楽しさや達成感を実感できるようにしていくとともに、2学期からの縄跳びチャレンジの実施を通して、さらなる向上をめざす。 「早くねて、早くおきる、規則正しい生活習慣を守れましたか」の項目では、85％と目標値を上回っているが、平日と休日で寝る時間に差がある児童が多い現状である。また、「朝ごはんをしっかりと食べていますか」の項目では、87％と目標値を下回っており、学年が上がるにつれて朝ごはんを食べない児童が多くなっている。具体的な取り組みを継続していく中で、朝ごはんの必要性やより良い生活リズムを送るように啓発していく。				
			・体育委員会が中心となって、縄跳びチャレンジを実施したり、縄跳び・かけ足カードを活用したりすることで、運動の楽しさに気付かせ、自ら楽しんで運動をする子どもを育てる。 ・保健委員会が中心となって、生活リズムを見直す取り組みを通して、自ら早寝・早起きをしようとする子どもを育てる。 ・八田荘小学校の栄養教諭と連携し、各学期1回、全校朝礼で朝ごはんや食事の大切さを啓発する。また、全学年1回、食育に関する授業も実施する中で、自らの食生活を見つめなおそうとする子どもを育てる。	・西っ子アンケート「運動することは、好きですか」の項目 肯定回答90％以上(前年度93％) ・西っ子アンケート「早くねて、早くおきる、規則正しい生活習慣を守れましたか」の項目 肯定回答80％(前年度85％) ・西っ子アンケート「朝ごはんをしっかりと食べていますか」の項目 肯定回答90％(前年度87％)	西っ子アンケート 子ども観察 西っ子アンケート 子ども観察	随時 学期末 随時 学期末	○ ○	西っ子アンケートの「運動することは、好きですか」の項目で、肯定回答が93％と目標値を上回っている。引き続き、体育の授業や行事を通して、運動することの楽しさや達成感を実感できるようにしていくとともに、2学期からの縄跳びチャレンジの実施を通して、さらなる向上をめざす。 「早くねて、早くおきる、規則正しい生活習慣を守れましたか」の項目では、85％と目標値を上回っているが、平日と休日で寝る時間に差がある児童が多い現状である。また、「朝ごはんをしっかりと食べていますか」の項目では、87％と目標値を下回っており、学年が上がるにつれて朝ごはんを食べない児童が多くなっている。具体的な取り組みを継続していく中で、朝ごはんの必要性やより良い生活リズムを送るように啓発していく。				
居場所づくり	重点目標	誰もが安心して過ごせる居場所にするために、自分も相手も大切にし、自ら考え行動できる子どもを育てる。	●各クラスで人権目標を学期ごとに決め、自分や友だちのいいところを見つける活動に取り組むことで、自分のまわりの出来事に関心をもち、自分ごととしてとらえ、課題解決していこうとする人権感覚をもつ子を育てる。 ●ふわふわ言葉やポジティブな声かけ等を通して、学校を、安心できる居場所にする。	西っ子アンケート「人権目標は意識できましたか。」の項目 肯定回答90％以上	西っ子アンケート 子ども観察	学期末	○	西っ子アンケートの結果、「人権目標は意識できましたか。」の項目で肯定意見が88％であった。各クラスで決めた人権目標を意識して、お互いの人権を尊重し合うことが概ねできている。引き続き、人権感覚を高められるよう、日頃から人権目標に立ち返る取り組みを続けていく。				
			●個に応じた支援体制を確立していくことで、一人ひとりが安心して力を発揮できるようにする ●困り感を抱えている子の教育相談・個別の支援を行う。 ●朝礼等で特別支援についての啓発活動を行ったり、各学年と支援学級との交流会を行ったりする。 ●UDを意識した教室環境、授業づくりを行う。	西っ子アンケート「友だちや先生に大切にされていますか」の項目 肯定回答90％以上。	西っ子アンケート 子ども観察	学期末	○	西っ子アンケートの結果、「友だちや先生に大切にされていますか。」の項目で肯定意見が86％であった。目標値は達成できていないため、「いいところみつけ」の取り組みを通して引き続き、どの子も安心して通える学校づくりをめざす。また、成果や達成感を実感するような環境作りをしていく。さらに、支援要員を開き、個に応じた支援・対応を教職員全体で進めていく。				
校長より(年度末)							学校関係者評価者から(年度末)					